



こうちよう ながさき よしお  
校長 長崎 良夫

## ＊ 意味 (ミーニング) ＊

「何でこんなことやっているのだろう。」とふと思うことがあります。すると、自分のやっていることに意味を見いだせず、何か鬱々とした気分になります。

何度やってもうまくいかないし、やることなすことつまらなくなってきました。こういった場面が増えてくると生活に張りがなくなり、抑鬱気分になってきます。

第二次世界大戦の時にアウシュビッツの収容所に収容された精神科医で心理学者のフランクは、これから訪れる死の恐怖に無気力になったり、発狂したりする周りの人々と共に自分も同じような状態になろうとしました。

しかし、彼はこの狂気の状態を世に知らず義務があるという意味を見つけ、人々の様子を克明に観察しようとしてきました。そして、幸運にも終戦・収容所から解放され、この実体験を「夜と霧」という本にまとめ出版し、世界的ベストセラーとなりました。

困難な状態、うまくいかない状態も見める角度を変え、自分なりに意味を見つけることにより人間は乗り切ろうという意欲に転化することができるのではないかと思います。

今の状況は、克服困難な事態として認識するのではなく違う見方をしてその問題に立ち向かうとやる力こそが大事なのではないかと思います。それこそが、人にとって大切な「生きる力」を獲得することなのではないかと考えています。

子どもも大人も新しい未来をよくしていこうという気概をもって生きていきたいと思っています。



●本校ホームページ ([www.edu.pref.shizuoka.jp/tobu-sh/home.nsf](http://www.edu.pref.shizuoka.jp/tobu-sh/home.nsf))

ぜひ、ご覧になってください!



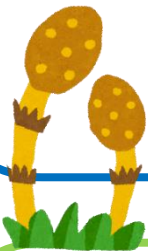
## しょうがくぶ 小学部

小学部では「できることをふやし、自分の思いを表現する人」を目指し、日々子ども達と楽しく遊び、楽しく学習に取り組んできました。子ども達の小さな一歩を見つけ、一緒に喜び、一緒に成長する、そんな子ども達と先生達の姿を毎日毎日見ることができた幸せな一年でした。みなさん、一年間ありがとうございました。



## こうとうぶ 高等部

高等部では「もてる力を発揮して、自分らしく生きる人」を目指し、日々の学習に取り組みました。現場実習や校内実習で普段とは異なる環境でも自分のできることを発揮し、東翔祭では堂々と学習の成果を発表しました。また、今年度は学習場面で地域の方と直接関わる機会も多くありました。様々な経験を通して、社会で自分らしく生きる力を着実に身につけることができた一年でした。



## ほうもんきょういく 訪問教育

4月に静岡医療センターに2名の仲間が増え、賑やかになりました。今年も施設と在宅の全員で劇づくりに取り組みました。『大きなカエル ティダリク』の物語を鑑賞し、登場する動物になりきって特徴的な動きを繰り返し体験しました。楽しく活動している様子を撮影し、それらをつなぎ合わせて1本のビデオが完成!東翔祭などで発表できて良かったです。



## ちゅうがくぶ 中学部

中学部では「もてる力をのばし、自分らしく表現する人」を目標に取り組んできました。中2の交流では、葦山寺家区シニアクラブの方達とボッチャや作品作りをしました。体育祭や東翔祭では、学部全体で行い、家族や地域の方に生徒達の活躍を見ていただきました。多くの方達と関わることで、更に自分達の力を伸ばすことができた。一年間ありがとうございました。



それいけ! とうとくん!



作: 波乗りあーちゃん